

令和7年12月5日

保護者様

白井市立南山中学校
校長 土屋 博之

令和7年度 全国学力・学習状況調査の実施結果について

1 全国学力・学習状況調査について

この調査は、4月17日に行われました。全国の中学校3年生を対象とし、調査内容は、①国語、②数学、③理科、④質問紙調査（学習意欲、学習環境、生活面等に関する調査）の4種類です。

この調査により、全国、県の結果を見ながら本校の教育活動の成果や課題を見つめなおし、よりよい教育活動に生かすことが期待できます。3年生には、本日個人の結果を返却いたしました。なお、この結果は学校での通知表の評価・評定に入る資料ではありません。全国の結果と比べたり自分の課題を把握したりして、今後の学習に生かしてほしいと思います。

2 教科の結果から

《国語》

書くこと・読むことにおいて全国や県より上回っています。記述式の設問における正答率が全国・県を上回っており、本校で「まとめを毎時間80字で書く」活動を行っていることから、文を書くことに対して抵抗感が少なくなっていると考えられます。

一方、言葉の特徴や使い方に関する事項が全国や県より下回っています。日頃の読書量が少ないことや、新聞等を読む機会が少ないことが、生活に必要な語彙が定着していないことにつながっていると考えられます。今後は、読書指導をはじめ、多くの文章を読む指導を強化していきたいと考えております。

《数学》

全体的に全国・県よりも上回る結果となりました。特に「数と式」「関数」の分野では、計算力向上に重点を置いた取組が奏功し、確実な定着がみられました。

一方で「図形」分野はやや数値が下がり、十分な指導時間を確保できなかつたことが要因と考えられます。解答形式では選択式の正答率は高い一方、短答式や記述式では伸び悩む部分がありました。今後は計算力の維持に加え、図形分野への指導の充実や表現力を高める練習を通して、総合的な得点力を育成したいと考えております。

《理科》

全体的に全国・県よりも上回る結果となりました。「生命」「粒子」の領域は、全国・県を大きく上回っており、とくに「生命」の分野の伸びは目覚ましいものがあります。

一方で「エネルギー」「天体」の分野は全国・県よりも下回る結果となりました。エネルギーについては実験を通して、また、天体はシミュレーションソフトや観察を通して、少しでも好奇心をもてるような教材の開発と運用を心がけていきます。また、選択式の問題は全国・県と比べて正答率が高い一方で、記述式はほぼ同程度、短答式は下回る結果となりました。記述式や短答式における正答率を高めるために、今後は対応力の育成にも取り組んでまいります。

3 学習や生活についての質問結果から

〔学習に関すること〕

学習意欲に関する項目では、多くの質問内容において、全国・県と同程度か上回る結果となり、意欲的に学習に取り組んでいる生徒が多いことがわかりました。特に「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」

「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の項目で高い数値が見られました。本校で実践している、授業の振り返りを自分の言葉で80字程度にまとめる学習や、学習課題について協働しながら思考する学習実践の成果の表れであると考えております。一方、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の項目が、全国・県と比べて低く、実生活と結びつけた学習や表現力の育成に課題があると考えられます。今後はこの課題にも積極的に取り組んでまいります。

〔生活面に関すること〕

「人が困っているときは、進んで助けていますか」「友達関係に満足していますか」といった項目について、全国・県よりも高い割合となっており、友人関係を大事にしている生徒が多く、満足度が高いと考えられます。一方、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目について、全国・県と比べて低い割合となっており、基本的な生活習慣が身についていない生徒が一定数いることが考えられます。この点については、学校と家庭とで連携を図り、指導を行っていきたいと考えております。また、「将来の夢や目標を持ってていますか」という項目についても、全国・県と比べて若干低い割合となっています。今後は、キャリア教育などを通して、生徒が自身の将来について主体的かつ積極的に捉えられるように指導を行ってまいります。現在3年生はそれぞれの進路に向けて、日々の活動に取り組んでいます。本校の学校教育目標である「新しい時代を切り拓く生徒」の育成をめざし、重点目標である「Action 前に踏み出す」「collaboration 協働する力」「Thinking 考え抜く力」を今後も推進し、充実した生活が送れるように助言・支援を行ってまいります。